

めざす児童生徒像

自分たちで、考え、計画し、行動をする子
な なかよく助け合い励まし合う子
か かんがえ、学び合う子
よ よく遊び、体を鍛え合う子
し しっかりあいさつし合う

※児童生徒達成結果－教員結果・保護者結果

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
						教員	児童生徒	保護者			
（学校で設定）		学風ひ土続のけ醸え合う職業	①～③の平均を80％以上にする。	①	子どもに向き合い教材準備をする日課の工夫をし、時間を創出する						
				②	効率的・効率的・実践的な短時間OJTを実施している。						
				③	ゴールを思い描く『憧れの教師像・同僚像・人生像』を設定し、めざしている。						
				集計							
	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目					※差	達成状況の分析	改善策
重点項目	業務の改善	働き方や	①～③を90以上にする	①	80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。						
				②	校務分掌や業務の整理・統合・見直しが図られており、業務の平準化がなされている。						
				③	最終退校時刻を設定して、児童の下校後意識して業務（特に教材研究）を進めている。						

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
						教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目		学校研究	②③の平均値が90%以上	①	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。						
				②	研究主題に迫る目指す授業像（児童生徒像）を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。						
				③	教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。						
				集計							
		指導力の向上	③④⑥の児童の割合が、前期…80％以上 後期…85％以上 ③④⑤の教職員の割合が、90％以上	①	児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。						
				②	児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。						
				③	（発表力） 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。						
				④	（記述力） 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。						
				⑤	児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。						
				⑥	児童生徒は、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。						
				集計							
		学力の定着	②の教職員の割合が90％以上（分掌部会による検証実施）	①	学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。						
				②	学校力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。						
				③	近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。（小中連携）						
				集計							
		家庭学習	①の児童の割合が85%以上	①	自分で計画を立てて勉強している（3年以上）						
				②	児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている						
				集計							

令和2年度小松市立栗津小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	「わ」を大切にした学校づくりを推進する。 ・児童へのアンケート結果を元に担任と児童で話し合い、各学年で年間の重点目標を決定し、取り組む。 ・7月・12月の意識調査をもとに取組を改善し、成果を共有してより効果的・効率的な取組とする。 ・児童会と連携し、児童の視点で魅力的な学校づくりに向けて児童一人一人の教育的ニーズに応じた教育を推進する。		
	・気づき票を通し、特別な配慮を要する児童の課題を把握し、適切な支援を行う。 ・組織的な特別支援教育を推進のため、現状を把握、評価した上で、効果的だった支援方法などを共有し、継続した支援が行えるよう校内支援体制の充実を図る。		
道徳教育	日常生活で生きて働く道徳科の授業づくりを推進する。 ・深い学びにつながる授業展開を行い、必要に応じて公開研修会で研鑽を図る。 ・授業の振り返りを道徳ノートに残し、自身の変容を実感できるようにする。 ・道徳科での学びを生かしている場面を評価し、児童が学びを実感できるようにする。		
	児童の運動能力の向上を目指し、健康な生活づくりを推進する。 ・体力テストの結果を児童や保護者に6年間継続して周知したり、栗津オリンピックを実施したりして、運動に取り組むことへの意欲の向上を図る。 ・にこにこ生活プロジェクトを実施して、メディアとの関わり方（自分を大事にするメディアコントロール）を考え、よりよい生活習慣を心がけられるようにする。		
情報教育	情報モラル・リテラシーを育み、ICT機器を活用した教育を推進する。 ・計画的にタイムリーかつ児童の実態に応じた情報モラル、情報リテラシー教育を実践する。 ・市から出ているICT指標を参考に、児童にICTスキルが身に付くようにする。 ・全学年の教室にICT機器環境を整え、それらの機器の具体的な使い方や活用方法を提案していく。		

学校関係者評価	
---------	--